

	① 地域・避難所で流行または多数発生する可能性 1. 低、2. 中、3. 高	② 公衆衛生上の重要性 (罹患率・致命率・社会的) 1. 低、2. 中、3. 高	③ リスク評価 1. 低、2. 中、3. 高	コメント
避難所の過密状態に伴う感染症				
新型コロナウイルス感染症	2	3	3	避難所においては、「密閉・密集・密接」になりやすく、持ち込まれた場合は感染が拡大しうる。高齢者や基礎疾患のある被災者は重症化のリスクが高い。
インフルエンザ/インフルエンザ様疾患	1	1	1	現在、国内ではインフルエンザの活動性は低い。
その他の急性呼吸器感染症	2	2	2	避難所での過密状態が継続すれば発生リスクが高まる。
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	2	1	避難所での過密状態により発生することがある。
結核*	1	2	1	咳が2週間以上続く場合には鑑別が必要である。
食品媒介性感染症				
感染性胃腸炎/急性下痢症(ノロウイルス・ウェルシュ菌・黄色ブドウ球菌・サルモネラ・カンピロバクター・病原性大腸菌など)	3	3	3	不慣れた大量調理や高温多湿の環境で発生しやすい。過去に避難所で胃腸炎の散発的な発生や食中毒事例が報告されている。
野外活動等で注意する感染症				
創傷関連皮膚・軟部組織感染症	2	1	1	がれきの撤去等で受傷した際に罹患するリスクがある。集団感染のリスクは低い。破傷風のコメントも参照。
節足動物等の媒介による感染症	2	2	2	野外作業に伴う虫咬傷で罹患するリスクがある。
レジオネラ症	2	2	2	がれき撤去等の作業に伴い発生するエアロゾルや粉塵への曝露により罹患するリスクがある。
レプトスピラ症	2	2	2	洪水災害時、報告数の増加を認める事がある。
ワクチンで防ぐことのできる感染症				
破傷風	2	2	2	外傷後、泥流や土壌曝露後に感染しうる。がれきや泥の撤去作業時にもリスクがある。
麻疹(はしか)	1	3	2	2020年21週を最後に症例が報告されておらず、渡航制限により海外からの輸入例の報告もないことから、麻疹が発生する可能性は極めて低い。但し、避難所で1例でも発生した場合、公衆衛生上の影響が大きい。
風疹	1	2	1	継続的に国内各地で発生しており、被災地での発生及び持ち込まれる可能性がある。妊娠初期の感染は先天性風しん症候群のリスクがある。
水痘	2	2	2	空気感染により伝播することから避難所で流行の可能性がある。妊婦は胎児合併症のリスクが高く、注意を要する。高齢者の带状疱疹からの接触感染にも注意が必要である。
百日咳	2	1	1	継続的に国内各地で発生しており、被災地での発生及び持ち込まれる可能性がある。乳児では重症化する可能性がある。

*被災直後よりも避難所での滞在が長期になった場合に問題となる